

まち・風景・未来を紡ぐ

数多くの史跡、清流玉川や里山の風景は、古くから受け継がれてきた井手町の文化・景観資産です。

一方でバイパスの整備や企業誘致をはじめ、井手の町は着実に変わりつつあります。

私たちは、**新たな人の流れや賑わいを最大限に活性化する場**であると同時に、**豊かな田園風景の魅力を炙り出すような庁舎こそ**この井手町にふさわしいと考えました。その庁舎を、〈ドマ〉と〈ニワ〉という特徴的な外部空間によって実現します。

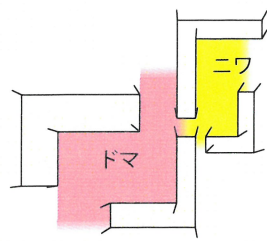


■まち・自然と一体となった庁舎

新たな庁舎は〈ドマ〉と〈ニワ〉という2つの特徴的な外部空間を核として生まれます。

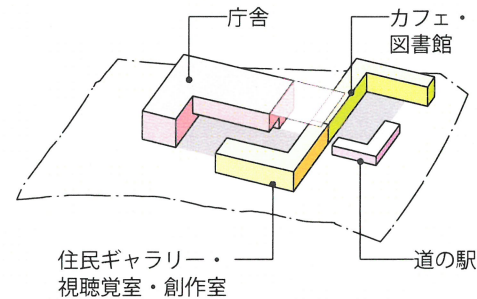
〈ドマ〉：多彩な住民活動やイベントの舞台となる賑わい溢れた空間

〈ニワ〉：読書や憩いの場となる緑豊かで親しみやすい空間



■絡み合う4つの「L」

庁舎、ふれあいセンター、道の駅は、〈ドマ〉と〈ニワ〉を緩やかに囲うように4つの「L」形のボリュームが絡み合いながらできています。



■立体的に連なる軒下空間

様々な高さで〈ドマ〉や〈ニワ〉の周りを巡る屋根は、有機的に連なりながら、ここでの多彩な活動を支え、交流を促し、地域の防災拠点としての機能性も高めます。

